

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2022/09/22

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	37.19	0.16
JPY/THB	0.2582	0.0006
USD/JPY	144.06	0.31
EUR/THB	36.57	-0.34
EUR/USD	0.9837	-0.0134
USD/CNH	7.075	0.045
SGD/THB	26.24	-0.02
AUD/THB	24.67	-0.09
USD/INR	79.98	0.22
USD Index	110.64	0.43

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.383	-0.001
10Y (THB)	2.980	0.004
5Y (USD)	3.766	0.020
10Y (USD)	3.530	-0.033

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,665.8	4.8
WTI (Oil)	82.94	-1.51
Copper	7,690.0	-68.0

Stock

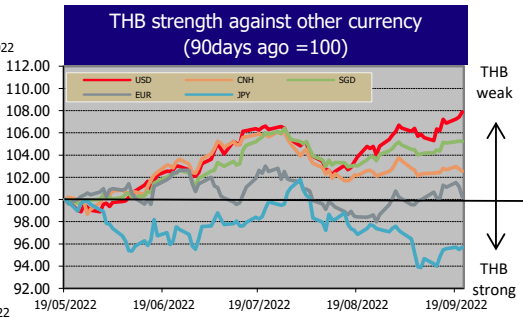
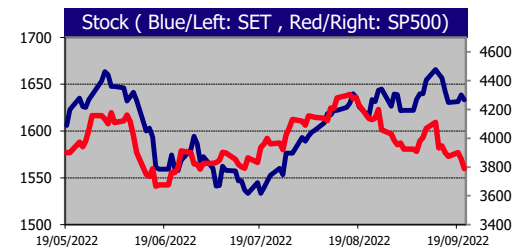
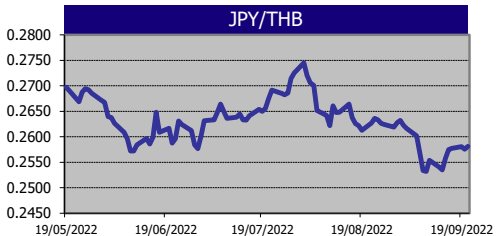
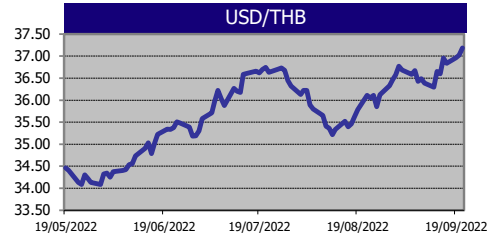
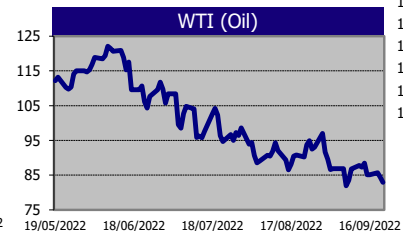
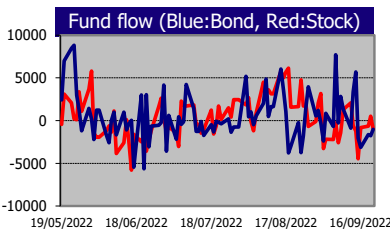
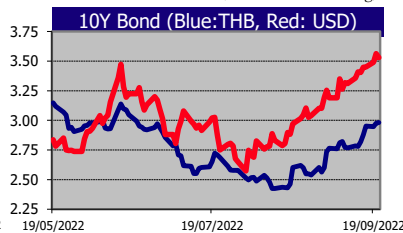
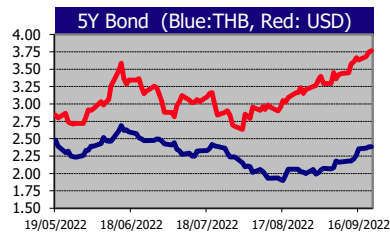
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,633.45	-5.14
NIKKEI (JP)	27,313.13	-375.29
DOW (US)	30,183.78	-522.45
S&P500 (US)	3,789.93	-66.00
SHCOMP (CN)	3,117.18	-5.23
DAX(GER)	12,767.15	96.32

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(1,002)	-1511.6
Bond net flow	(1,032)	734.0

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドル/パーツは上昇した。37パーツ丁度付近でスタートしたドル/パーツは、海外時間にFOMCの結果公表を控える中、朝方からドル買い優勢の展開となり、底堅く推移。注目されたFOMCでは、利上げ幅は事前のコンセンサス通り75bpとなつたものの、メンバーが予想する今後の金利予想(ドットチャート)の中央値が今年4.375%、来年4.625%と前回(6月)から大幅に引き上げられた一方で、2年後の2024年には利下げに転じるとの予想も確認され、米2年債利回りが上下し、ドル/パーツも連れる展開に。その後、パウエルFRB議長の会見を経て再度金利が上昇すると、ドルパーツも37パーツ台前半まで戻し、37.19レベルで引けた。

●ドル円その他

・昨日のドル/円は底堅く推移する展開。143円台後半付近でスタートしたドル/円は、序盤、ロシアのウクライナ侵攻に係るヘッドラインが確認されるも、FOMCの結果公表を控える中、相場への影響は限定的に。FOMCでは公表された経済見通しにて2022年の実質GDP変化予測を前回(6月)の+1.7%から+0.2%に、2023年を+1.7%を+1.2%に引き下げた一方で、来年まで金利を引き上げるスタンスが確認され、痛みを伴っても利上げを行う姿勢が見られたこともあり、米金利とともにドル/円相場も結果公表直後こそ上下したものの、終盤にかけては上昇に転じ、結局144.06レベルでクローズを迎えた。

Bangkok Dealer's Eye

注目の米FOMC会合が開催され、政策金利は事前予想通り75bpの利上げが発表されました。また同時に発表されたFOMCメンバーによる今後の政策金利見通しは、2022年末4.375%(6月会合時点見通し3.375%)、2023年末4.625%(同3.75%)、2024年末3.875%(同3.375%)となり、いずれも事前予想を上回る上昇幅でした。政策金利見通しの解釈としては、2022年残り2回のFOMC会合においては合計125bpの利上げが想定されていること(恐らく75bp+50bp)、2023年には景気後退を引き起こすことも辞さず引き締め水準である4%台後半まで政策金利を引き上げることが想定されていること、そして2024年には利下げを想定していること、になります。数カ月前まで、市場では2023年中の利下げを織り込む動きもあったことから考えると、FEDのタカ派姿勢が際立ちます。為替は引き続き米ドルが買われやすい地合いが続きますが、円においては円買い為替介入観測が強く、またタイパーツにおいても政府とタイ中銀が足元のタイパーツ相場について会合を持つ予定があるなど、ここきて為替相手国から米ドル高を牽制する動きが目立って来ており、ボラティリティが高まる局面では何らかのアクションが取られる可能性もあるため注意が必要です。(池澤)